

「健康」には

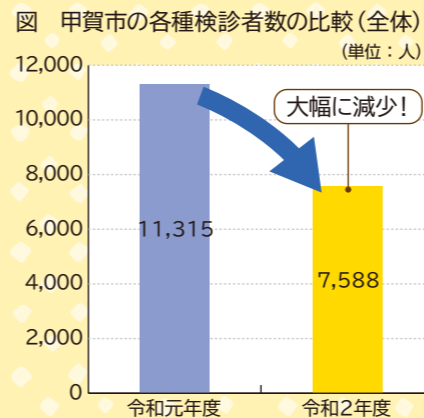


国のイメージキャラクター「けんしんくん」

新型コロナウイルスへの感染が心配で普段の通院や毎年受けていた健診(検診)を控えているということはありませんか。今月は「健康増進普及月間」です。自分自身の「健康」について考えてみましょう。

検診者数が
3,727人も減少

下のグラフは市での感染拡大前の令和元年と感染が拡大した令和2年度の各種がん検診の受診者数の比較です。
減少理由は受診控えなどさまざま考えられますが、検診をもっと早く受けていたら「どうしてもっと早く検診を勧めなかったのだから」と後悔することのないように



※上記人数は(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん)の合計。

市では現在死因の1/4を占める「がん」の検診率50%以上をめざし、新型コロナウイルススワクチンの接種会場での動画や市内事業所等へのチラシ配布などの啓発を行っています。
がん検診は、健康保険の種類に関係なく、市が行う集団検診または市内医療機関で受診できます。なお、乳がん検診、子宮頸がん検診は市外医療機関でも受診できます。
詳しくは「健診(検診)カレンダーIP16」をご覧ください。
注 現在、後期集団検診の申し込みは終了していますので、市内医療機関での受診をお願いします。



健診(検診)カレンダー

市で実施しているがん検診

胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診
<p>ピロリ菌が危険因子の一つと言われています</p> <p>対象者 40歳以上</p> <p>受診間隔 1年に1回</p> <p>検査方法 胃部エックス線検査</p> <p>自己負担額 900円</p>	<p>40歳代後半から増加</p> <p>対象者 40歳以上</p> <p>受診間隔 1年に1回</p> <p>検査方法 胸部エックス線検査</p> <p>自己負担額 200円 喀痰検査(該当者のみ) 500円</p>	<p>40歳代から増加</p> <p>対象者 40歳以上</p> <p>受診間隔 1年に1回</p> <p>検査方法 便潜血検査</p> <p>自己負担額 500円</p>
乳がん検診	子宮頸がん検診	
<p>女性の11人に1人がかかるといわれています</p> <p>対象者 40歳以上女性</p> <p>受診間隔 2年に1回</p> <p>検査方法 マンモグラフィ(乳房エックス線検査)</p> <p>自己負担額 1,500円</p>	<p>20~30歳代に増加</p> <p>対象者 20歳以上女性</p> <p>受診間隔 2年に1回</p> <p>検査方法 子宮頸部の細胞診</p> <p>自己負担額 集団 1,000円 医療機関 1,700円</p>	



公立甲賀病院 辻川知之(つじかわともゆき)院長

公立甲賀病院の辻川院長に検診の現状とコロナ禍での健康について気をつける点などについてお話を伺いました。

受診を控えず 安心して病院へ

「当院での検診の受診者数は、現在も感染拡大前に戻るまでには至っていません。検診率が下がるということは、症状が出るまで受診されず、より進行する病気の人が増えるということです。」

毎年検診を受けておられた方であっても病院に行くことでコロナに感染するリスクを心配される方が4人に1人程度おられるというアンケート結果もあります。そうしたことから、検診や通院

される方が安心して受診いただくよう、入口での消毒と検温、定期的な消毒や換気に加え、職員のマスク、フェイスガードなど基本的なことを再度徹底するなど感染拡大防止のためにさまざまな対策を取っています。
新型コロナウイルスへの感染を心配するあまり、結果として病状が進行してしまつては本末転倒になってしまいます。安心して受診してください。」

症状がない 安心ではない

「自覚症状がなくてもがんなどの悪性腫瘍は進行する場合があります。医療技術が進歩しても、かなり進行してしまつてからでは救

うことはできません。いかに症状がないときに見つけられるかが大切であり、早期発見には「検診」しか方法はありません。
健康に自信があるという考えに根拠はないのです。
決して自覚症状に頼ることのないようにしてほしいと思います。」

早期発見のための病院へ

「医療の流れは病気を治すということから早期発見、予防という視点にシフトしています。
健康で生活するためには、症状が出てから病院に行くのではなく、自覚症状のない段階であってもできるだけ早期発見につながるための検診を受けていただく**無症状のうち**に治すという視点をもち**健康への一番の近道**です。」

また、コロナ禍では家にいる時間が増えたことによるアルコール摂取量の増加や、運動機会の減少による健康への影響が心配されます。

9月は残暑が厳しく外出にはまだまだ熱中症への注意が必要ですが、室内であっても適度に体を動かすということを意識して生活してほしいと思います。」

早期発見で助かる命

本院での症例をひとつお話しします。

そろそろ検診を！(Aさん 50歳男性)
普段から胃腸は丈夫である。ただ、父親を胃がんで亡くしており、そろそろ検査をうけた方がよいと思っていたところ、市の胃がん検診(内視鏡検査)が50歳以上で受けられることを知り申し込みました。
内視鏡検査はほとんど苦痛なく約5分で終了し、説明は後口となった。検査結果は胃の出口近くに2cmほどの凹んだ部位があり、組織を採取したところ、胃がんと診断された。
治療はがん部の大きさから**幽門側胃切除術**(胃の出口側を外科的に切除する方法)が施行された。最終病理の結果、胃がんは表面に留まっており「早期胃がん」で診断され転移も認められなかった。手術後も定期的に検査を受けているが、再発なく**元気に過**されている。

症状がなくても検診を

何も症状が無いうちに検診で見られる胃がんや大腸がんは「早期がん」が多く、治療で治癒する可能性も高いです。気になる症状があれば直ちに医療機関を受診すべきですが、まったく症状がなくても検診可能な年齢に達した市民の皆さんは定期的ながん検診を受けられることをぜひお勧めします。

市のがん検診についての詳細は、**健診(検診)カレンダー**、市ホームページをご覧ください。